

## 昨年秋以降の感染拡大の状況

- 今般の感染拡大は、11月上旬に新規陽性者数が1日平均15名を超えたあたりから感染が徐々に拡大し、12月上旬に1日平均30名を超えて急拡大した。
- 感染拡大につれ、経路不明割合、PCR検査陽性率も増加傾向が見られた。
- 10月以降、感染拡大の進展とともに、若者・飲食、医療・高齢施設、経路不明の順で特徴的な感染増が見られた。
- 11月以降、医療機関や高齢者福祉施設のほか、大学寮や高校課外活動でのクラスターも発生した。
- 医療提供体制についても、12月上旬の感染急拡大以降、病床の使用率が高水準で推移し、12月下旬には重症者数が急増した。

変異株の出現や首都圏や大阪府等の感染等の状況を勘案すると、感染の再拡大はいつでも起こりうる状態にある。その兆しを早期に把握し感染防止対策を強化することにより、市中まん延を防止することが重要。

# 感染再拡大防止対策のための目安の設定

## 【基本方針】

- 国においては、感染状況をステージⅠ～Ⅳの4段階に区分し、ステージ判断により、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の適用等を総合的に判断することとされている。
- こうした国の方針や今般の経験を踏まえ、感染の再拡大を早期に把握し、適切に対策を実施するための目安を設定する。

## 【運用の方向性】

- 政府分科会のステージⅢに至らないことを目標に、警戒期及び嚴重警戒期の2つのステージを設定する。
- 政府分科会のステージ指標との連続性を考慮し、新規感染者数、前週比較、経路不明割合、PCR検査陽性率、高度重症病床占有率をモニタリングする。
- 各ステージにおける対策は、専門家の意見を聴取の上、感染状況、医療提供体制の状況、東京都等の首都圏や大阪府等の近隣府県の状況等を勘案し、総合的に判断する。

# 感染再拡大防止対策のための目安

ステージ	感染の状況 *いずれも7日間移動平均			監視体制 *7日間移動平均	医療提供体制の状況		
	①新規報告数	②直近1週間 と先週1週間 の比較	③感染経路 不明割合	④PCR検査 陽性率	⑤高度重症病床占有率 ※5		
警戒期 ※1	15人/日 以上	増加傾向 ※3	増加傾向	増加傾向 ※4	1/5 以上		
嚴重警戒期 ※1※2	30人/日 以上						
(参考)政府分科会 ステージⅢ	56人/日 以上 (15人/10万人/週 以上)	直近1週間が先 週1週間より多い。	50%	10%	病床全体	うち重症者用病床	療養者数
					・最大確保病床 の占有率 1/5 以上	・最大確保病床の 占有率 1/5 以上	15人/10万人 以上
(参考)政府分科会 ステージⅣ	93人/日 以上 (25人/10万人/週 以上)				・最大確保病床 の占有率 1/2 以上	・最大確保病床の 占有率 1/2 以上	25人/10万人 以上

※1 1つひとつをもって機械的に判断するのではなく、各目安の状況や、東京都等の首都圏や大阪府等の近隣府県の状況も勘案し、総合的に判断

※2 「ステージⅢ」に近づく場合には、全国状況も踏まえて、まん延防止等重点措置の適用の要請、対策を判断

※3 増加速度等を注視

※4 大学、繁華街等への感染拡大を早期に検知するためのPCR検査の結果も注視

※5 高度重症病床の重症者数には、ECMO又は人工呼吸器による管理が必要な方を計上